



石丸 聡 さん (佐田出身)
元生徒会長 | Satoshi Ishimaru

頭髪を自由化

開校から19年間、男子生徒は丸坊主、女子生徒は前髪は眉毛まで、髪を束ねるという校則を続けてきた美浜中学校。その校則が改正されたのは平成6年12月のことです。

頭髪の自由化に奮闘した当時の生徒会の一員、石丸聡さんに話を伺いました。

▼私は、2年生の後期に生徒会会長に就任しました。会長に就任してさまざまな活動に取り組みましたが、その中でも、頭髪の自由化への取り組みが特に印象に残っています。

当時、美浜中学校の校則である「自主自律」の精神に基づき、「頭髪の校則についても見直すべきだ」という生徒たちの強く熱いエネルギーが、頭髪自由化のきっかけでした。周囲の仲間からは「頭髪自由化の実現をよろしく頼む」等と声を



平成6年度まで男子は丸坊主でした

かけられたことを今でも憶えています。

私たち生徒会では、その声を収集し、先生方と協議を重ねました。内容が重要であったため、私の任期中には叶いませんでしたが、後任の藤田一作会長の時に晴れて承認されました。

今でも、この非常に貴重で意義深い活動に携われたことを誇りに思っています。

最後に、頭髪の自由化に賛同してくれた生徒の皆様、ご理解とご協力をしてくださった先生方、一緒に力を合わせたこの問題に取り組んだ役員の皆様、粘り強く、かつ真摯に取り組んで頭髪の自由化を実現した藤田一作さん並びに役員の皆様に深くお礼を申し上げます。

| 年月 | 内容 |
|--------|--|
| H17・8 | 全日本中学校陸上競技選手権大会(女子4種競技)で、浜野りえさんが日本中学新記録を出し優勝する |
| H18・6 | 経済産業省資源エネルギー庁よりエネルギー教育実践校に認定される |
| H18・9 | 町給食センターによる給食が開始される |
| H18・10 | ジュニアオリンピック大会の砲丸投げCクラスで、岸本拓真さんが優勝する |
| H19・8 | 北信越中学校総合競技大会に女子バレーボール部が県代表として出場。第3位となり全国中学校バレーボール大会に出場を果たす |
| H20・4 | 初めて中高一貫教育連携入試により23人が美浜高等学校へ進学する |
| H20・8 | 全日本中学校陸上競技選手権大会で男子4人(岸本拓真さん・杉本真輝さん・津原悠馬さん・仲島諒さん)が4×100mに出場し県中学新記録を樹立する |



浜野 りえ さん (早瀬)
元陸上部部員 | Rie Hamano

陸上競技で全国制覇

部活動で数々の優秀な成績を残してきた卒業生たち。

その中で、全国の頂点に登りつめた人がいます。女子4種競技で輝かしい成績を収めた浜野りえさんに陸上を通して得たものをお聞きしました。

▼私は、美浜中学校の生徒として全国制覇できたことを誇りに思います。

在学中は、柴田利郎先生の指導のもと日々練習を重ね、時には敦賀高等学校の合宿に参加するなど、陸上で必要となる筋力や瞬発力、持久力などを鍛えました。

とても良い環境で練習させていただいたので、あのような素晴らしい結果を出すことができました。

陸上を通して得たものは「忍耐」だと思います。けれど、その背景には、周りの支えや応援があつ



200mを力走する浜野さん

たから乗り越えられることもたくさんありました。

今は、私を支えてくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、感謝の気持ちを常に持ち、日々過ごしていきたいです。

私は今、陸上から離れてしまいました。先日福井市で開催されていた県民スポーツ祭で恩師である柴田先生とお会いし「もう一度陸上をしないか?」という声をきっかけに、来年度からまた陸上の世界に復帰することにしました。これから、またトレーニングを重ね頑張っていきたいと思えます。

最後に、新しい美浜中学校になっても、たくさんの歴史をつくってもらいたいです。そして、美浜中学校の名を全国に広めていってほしいです。新校舎になっても変わらぬ美浜中学校が大好きです!



昭

和から平成にかけ、
5,552人の卒業
生を送り出してきた美浜中
学校。

これまで、この学び舎を
舞台にたくさんの人たちが
出会い、そして喜びを分か
ち合い、時には、涙の別れ
もあったでしょう。

青春時代を過ごした思い
出深い校舎・体育館は、8
月から取り壊されており、
今後、輝く青春の思い出は
新校舎へと受け継がれてい
きます。

来月号では、今年9月か
ら開校となる「新生 美浜中
学校」を紹介します。

● 特集 昭和50年からの歴史を振り返る
美浜中学校 おわり

産業厚生常任委員会

視察研修報告

● 視察日

平成21年6月23日(火)～24日(水)

● 参加者

- ・ 兵庫 賢一委員長
- ・ 樋下 伸嗣 副委員長
- ・ 飯田 豊 ・ 松田うめ子
- ・ 中村 清一 ・ 北村 晋
- ・ 山口 和治 ・ 崎元 良栄

特定非営利法人「ふるさと」

(長野県信州新町)

▽ 概要

・ かつて長野と松本の中継地として繁栄していた信州新町は、過疎化が進み、現在人口約5,500人、商店数は89店舗。
・ 商店街の有志が地域のセレモニーを支援するNPO法人を立ち上げ、地域の活性化に繋がっている。

▽ 研修内容・感想

昨今、各家庭で行われていた冠婚葬祭が、高齢化や生活様式の変化等により、地元で行われ難しくなっています。

信州新町では、このことが町内での消費が流出する一因ではないかと

「セレモニーふるさと」(NPO法人)を立ち上げました。

当初は、パーティー等を請負いノウハウを蓄積、その後本格的に事業に取り組みました。少しでも有利な支援方を模索する一方、質の高いサービスの提供を目指し、厚労省認定「葬祭ディレクター」の資格も取得したということです。

セレモニー会場には、アクアホール(水防会館兼商工会館)をはじめ、お寺、利用者の自宅などを使い、営業活動として、地域の女性のネットワークや応援団を組織することで、地元浸透を図っているそうです。

現在、NPO法人ふるさとでは、年間50件から60件の葬祭のほか、各種イベントを支援しています。コンセプトは「いずれも「地域の物、者、モノを使う」。地元商店街や農家からすべてを仕入れ、平成19年度は1億3千万円の売り上げを達成しました。

現在、町で実施される冠婚葬祭の半分は当法人が請け負うようになり、地域の人にとっては、葬祭の費用が安くなる、参列者が増えるといったメリットも生じています。

事業は始まったばかりですが、この動きにより、商店街ではさまざまな相乗効果もでてきているそうです。



アクアホール前にて

もうひとつの歴史館・松代、松代大本営象山地下壕

(長野市松代町)

▽ 概要

・ 「松代大本営」とは、アジア・太平洋戦争末期、「国体維持」を目的として、善光寺平一帯に分散して作られた地下軍事施設群。この工事では、多くの朝鮮の人たちや地元住民が労働を強いられた。

▽ 研修内容・感想

同館は、これまであまり語られてこなかった「もうひとつの歴史」を伝えようと、松代大本営工事に関する資料を展示する小さな小さな歴史館で、我が町も若狭国吉城歴史資料館が整備され、歴史や文化を町内外や後世に伝えるべく取り組みが本格的に始まっています。時代や目的に多少違いはありますが、このような取り組みは「語り部」の養成なしでは到底続くものではないと感じました。

株式会社ミールケア

(長野市松代町)

▽ 概要

・ 受託給食の会社で、地産地消とスローフードを提案している。
・ 幼稚園等においては、食育にも取り組み、好評を博している。

・ 従業員340人(内管理栄養士含む栄養士76人、調理師126人)

▽ 研修内容・感想

我が町の保育園や学校給食の将来を展望していく上で、同社を視察しました。

同社は長野・関東を中心に自然食レストランを経営し、学校・企業・医療施設等の受託給食や、保育園・幼稚園などの委託給食も手がけています。また、使用する食材すべては契約している農家から仕入れ、常に同社のコンセプトに合った食材で利用者へ食を提供しています。

地元農家といっても規模が大きくなく、高齢の方も多いということで、我が町でも取り組み可能だと感じました。

また、規格外の野菜を出荷したがらない農家に対し、同社から出荷を促すことで提供に至っている話を聞くと、地産地消を推し進める工夫とシステムづくりが求められていることを痛感した次第です。

総務文教常任委員会

視察研修報告

● 視察日

平成21年6月25日(木)～26日(金)

● 参加者

・藤本 悟 委員長
・辻健一郎 副委員長
・塩野 清 ・山口勝巳
・前田 義久 ・金森 恭
・倉田 愛子 ・竹仲 良廣
・中村 清一 議長同行

田原市役所ほか(愛知県田原市)

▽概要

田原市は、平成15年旧田原市が旧赤羽根町を編入合併して誕生し、その後平成17年旧渥美町を編入し現在に至ります。人口66,390人、切花を始め、メロン、キャベツなど全国で有数の農業地域として知られています。昭和40年代からはじめた東三河臨海工業地の造成によって、トヨタ自動車(株)をはじめとする多くの企業が進出、活力のある産業の町として発展しています。

また、環境と共生する豊かで持続可能な地域づくりを目指し、「たはらエコガーデンシティ構想」を掲げ「菜の花エコ」「廃棄物リサイクル」「エコ、エネルギー導入」な

ど、7つのプロジェクトを展開しています。

▽研修内容・感想

エコエネ推進室長の渡辺澄子氏から太陽光発電並びに風力発電の導入について説明を受けました。

太陽光発電の導入については、補助金制度を設けながら目標に向かって順調に推進しているそうです。

また、田原市内には風力発電が44基ありますが、この風力発電については次のような課題があるということです。

①風資源の有効利用と地域環境との調和を図るためのガイドラインが必要

②地域の風資源を地域経済に利用

(市民風車や農業等産業利用など)

③風力発電による環境改善事業を検討する等

その後、田原リサイクルセンター(炭生館)を訪ねました。ここにある風力発電所は、炭生館の消費電力をまかなうことを目的としているそうです。



風力発電について説明を受ける委員

美浜町では、エネルギー環境教育を実施していますが、今後公共施設に太陽光発電を積極的に設置するなど、町民の方に自然エネルギーについての理解を求めるときではないでしょうか。

また、今回の視察のなかで、風力発電に伴う低周波音の問題について市民の方から直接お話を聞くことができましたが、風力発電の導入においては低周波音等が発生しないようガイドラインの必要性を強く感じました。

豊川市給食センター

(愛知県豊川市)

▽概要

豊川市給食調理場は、学校給食センターをはじめ8つの調理場施設があり、給食実施数は18,543食です。

民間委託になったのは、平成12年に策定された「新学校給食センター建設基本計画」に管理運営方法を民間に委託する方針が打ち出されたことがきっかけです。

現在、調理業務は民間業者に委ねる一方、管理するための委員会(委員はPTA連絡協議会の会員 小・中学校長、教育委員、学識経験者、一宮地域保育園給食委員の11名)が設けられています。

▽研修内容・感想

学校給食センターを民間委託したメリットとしては、

①調理員の人件費の節減
②児童、生徒の増減に調理員の配置の調整が不要

③調理員の高齢者対策及び労務管理が不要

④労務管理等の事務作業量が減少等が挙げられ、

一方、デメリットとしては、
①受託業者の調理員に対して、栄養士が直接指導を行なうことができないため、調理や給食の質の低下を招かないよう十分配慮する必要がある

②正規調理員の配置転換等、その処遇が課題となる等
があるということです。

学校給食においては、地元でとれた野菜や果物をJAから購入し、

「豊川産○○の日」等のイベント給食を平成20年度は30回実施しているそうですが、配布する献立表に生産者の住所、名前、顔写真、苦労したこと等のコメントを記載するなど生産者の顔が見える取り組みを行っています。

当町において地産地消を進める場合、給食のみならず、まず町民の意識の高揚が必要であり、生産者を含めたシステム作りが大切であると感じました。